



株式会社高喜商店

海苔とともに120年 SDGsによる新たなつながりで 海苔の普及に向けた新商品を開発



株式会社高喜商店

創業：1901年(明治34年)

所在地：川崎市中原区木月4-3-5

事業内容：海苔の卸売、
自社製造と小売

代表取締役：高田 久

従業員数：8名



創業明治34年、海苔の卸売と自社製造と小売で120年以上の歴史を誇ります。「納得のいく商品しか作らない」をモットーに、安心・安全を心掛け、原料仕入れ、加工・卸・販売までの全ての工程を自社で行う「自社製造一括管理」を実現しております。



フレーバー海苔
『香辛子海苔』

認識した経営上の課題

海藻である海苔は、海を取り巻く自然環境の変化に敏感で、近年、地球温暖化による海水温上昇などの海洋環境の悪化によって、養殖期間が短くなるなど、さまざまな影響を受けています(課題：海苔の安定仕入・供給)。そのため、高喜商店は次の120年を見据えて事業を持続させるために、「海を取り巻く自然環境保護に向けた行動」を積極的に起こしています。海苔を巡る社会環境についても、生産者や卸売業者の減少や、食生活の変化により海苔を食べる機会が減りつつある状況です(課題：生産者減少・事業承継)。そこで、「本物の海苔」を扱う海苔製造元として、「海苔の魅力を活かした新商品の開発」に取り組んでいます。

「認識した経営上の課題」からSDGsを活用して 「取り組んだ内容」と「取り組んだ効果」

「海を取り巻く自然環境保護に向けた行動」については、海洋ごみ軽減の啓蒙活動を実施、海洋ごみを減らすための様々な活動を展開しています。リサイクル可能なアルミ缶と入替用の紙パッケージなどを取り入れ、環境負荷低減活動に直結した仕掛けで購買意欲を高めてもらう仕組みを実現しました。また、海苔の製造における食品ロスの削減にも取り組み、仕入れた海苔原料について製造時に生じる海苔の切れ端を販売したり、粉を他社製品の原料にするなど、製造工程における原料のロス率0%を達成することが出来ました。「海苔の魅力を活かした新商品の開発」では、環境に配慮するとともに、海苔の魅力を広く知ってもらうため、他産業連携でフレーバー海苔『香辛子海苔』を開発しました。市内2事業者との協力で実現したもので、パッケージの絵はアート活動を通して知的障がいのある人たちを支援するstudio FLATが制作しました。購入後は缶から取り外し、しおりやメッセージカードとしても再利用できます。売上の一部を制作側に還元しており、持続可能な社会を実現させるプロジェクトにもなっています。発売後、テレビなどのメディアで広く紹介され、年間販売予定数量が4カ月で売り切れました。生産体制を強化し、今後は看板商品のひとつになることを期待しています。

取り組んだ経験からアドバイス

まずは身近なところからSDGsに取り組み、その内容を発信することが大切です。周囲に知ってもらうことでSDGsをキーワードにしたり、同じベクトルを持った仲間と出会い、いろいろなつながりが持てるでしょう。小さな組織ではできることに限りがありますが、仲間が増えることで、自分たちのビジネスにおいてさまざまな可能性が広がっていくはずです。この仲間づくりで「かわさきSDGsゴールパートナー(P7)」が大いに役立っています。

産業振興財団(P7)の紹介で
異業種の仲間とつながり
新たな商品開発が
できました!



代表(五代目) 高田 久(右)、
情報発信を担当 高田 保(左)